

【緑地を楽しむ本】

『ゆうぐれのさんぽ』

ちいさなかがくのとも

高柳芳恵 / 著 夏目義一 / 絵 福音館書店



きらぎらと照りつける夏の一日が終わって、ほっとする夕暮れ、ちょっと散歩に出てみませんか？

『ゆうぐれのさんぽ』（ちいさなかがくのとも2012年8月号 福音館書店）は、

そんな夏のたそがれ時がテーマです。暑い日中は動き回りたくないですね、夕方になってやっと活動する気持ちになります。僕も、おじいちゃんと犬のチロと一緒に散歩に出かけます。実は人間だけでなく、ほかの生き物たちもまったく同じです。だから夕方に活動開始する生き物や、夜の虫たちを目当てに開花する花たちもいます。

お日様が山の端に近づくころ、水田ではツバメが飛び交っています。ツバメレストランのお食事タイム。しばらくして、ふと気がつくとおんなにいたツバメはいなくなり、代わりにトンボたちがスイー、スイーと飛ん

でいます。ツバメはどこへ行ってしまったのでしょうか？

帰路、行きがけに飛んでいた蝶は、草にしっかりつかまって眠りにつきました。薄暗い茂みの中にポツと白い花…レースのような花びら、カラスウリの花です！夜来る虫たちを、香りで誘っているのですね。家につく頃は、もうとっぷりと暮れました。ツバメは眠りにつき、今はコウモリが飛び交っています。生き物たちは同じレストランを、時間を譲り合って使っていたのです。

夏目さんの絵は情感にあふれ、ページをめくる毎に夏の谷戸の香りが立ち上がってきます。うれしいことにこの本に出てくる生き物や花たちには、季節さえあえばきっと出会えます。本の舞台が、寺家ふるさと村、ごくご近所さんだからです。そしてさらにうれしいお知らせ。7月13日(土)～22日(月)、寺家ふるさと村の四季の家で、『ゆうぐれのさんぽ』の原画展が開かれます。絵本の原画を鑑賞して、そこに描かれた生き物たちに会う、そんな贅沢なひと時を味わってください。

(小川)